

2 その他の文献より

ここでは鷺城新聞以外の文献より判明した播磨関係の作家を挙げている。ただし一部播磨かそれ以外の地域か判明しないデータ（例えば「ヒョウゴ」とのみ記述があり兵庫県のどこかが判明しないもの）については詳細不明のまま掲載している。基本的に参照した発行物の発行年順である。

1 「全国書画集覧」より（明治前期の発行と思われる）

畫の部 名家（大家の次の段） ハリマ 山田龍溪

2 「絵画共進 現存作家人名一覧表 全」1883（明治16）年2月（大阪）より

漢畫南北派

第一段 播州姫路 高瀬菁雨 一最上段に田能村直入らと共に掲載される
 第六段 ヒヤウコ 福田半仙
 第八段 ヒヤウコ 今井播堂
 第八段 ヒヤウコ 八木半仙
 第八段 ヒヤウコ 島 琴江
 第八段 ヒヤウゴ 入江蘭堂

古流及狩野派

第二段 ヒヤウゴ 北条法橋

3 「絵画共進 畫家人名一覧」大槻勤寿編輯 1883（明治16）年4月（大阪）より

明治十五年繪畫共進會出品畫家人名一覧

漢畫南宗派

第四段 兵庫縣 福寫半仙
 第八段 兵庫縣 高橋草山
 第十段 兵庫縣 八江蘭室
 第十段 兵庫縣 福島半邨
 第十段 兵庫縣 今井□□
 第十段 兵庫縣 高橋菁雨
 第十一段 兵庫縣 武田桂圃
 第十一段 兵庫縣 都築雪山
 第十一段 兵庫縣 梅谷蘭溪
 第十一段 兵庫縣 大谷石邨
 第十一段 兵庫縣 久保香雨
 第十一段 兵庫縣 桑原對泉
 第十一段 兵庫縣 八木半仙

第十一段 兵庫縣 井上蘭溪
第十一段 兵庫縣 正司春海
第十一段 兵庫縣 菅 小琴
第十一段 兵庫縣 小場瀬竹莊
第十一段 兵庫縣 松田聴琴
第十一段 兵庫縣 前川采藻

和畫諸派

第八段 播州 巖本圓嶺
第八段 播州 宮寄霞谷
第八段 兵庫縣 片岡公曠
第八段 兵庫縣 滋野芳園

不出品画家

第二段 播州 亀田爲風
第二段 播州網干 神楽江秋帆

※参考『大日本書画名家大鑑』より

福寫半仙－福島教鼎、播磨の人、画を父及び下田桂屋に学ぶ、明治年間
八木半仙－八木兼辰、播州龍野の人、八木伯墨、落合双石の門、明治年間
桑原対泉一名は眞糸、天保九年播磨に生る、画を下田桂屋の門に学ぶ
井上蘭溪一名は喜、播磨の人、安政四年生、画を肥塚南江に学ぶ

4 内国勸業博覧会への出品

第2回 1881（明治14）年3月1日～6月30日

画屏風（一）六曲四時花草折枝図 播磨国明石郡東魚町細谷立斎

第3回 1890（明治23）年4月1日～7月31日

彩色人物懸幅（一）播磨国姫路市元塩町 巖本繁治号丹嶺

着色游魚（一）播磨国姫路市大黒町 高橋正身

水墨夜景牡丹花懸幅（一）播磨国姫路市元塩町 有馬幹号三思

着色山水（一）播磨国神東郡田原町 藤本節二

※藤本節二は蠟石印（一）も出品。

第5回 1903（明治36）年3月1日～7月31日

山水 赤穂郡若狭野村ノ内下土井村五 西田松太郎

5 「絵画展覧会出品目録」松井忠兵衛編 1890（明治23）年

兵庫 浅井康夫（号鷗雨）

有田玉琴

※参考『大日本書画名家大鑑』より

浅井鷗雨－浅井康夫、淡路の人、嘉永五年生、画を細谷立齋の門に学ぶ、南宗画家

6 「第九回絵画共進会 日本美術院展覧会 出品目録」1900（明治33）年10月25日～11月3日

136 釣磯 福田麥僊 25.00
 237 ひめまつ小松 長安雅山 50.00
 懸賞画（秋風）
 411 福田麥僊
 689 福田麥僊 3.00
 別八 福田麥僊 8.00

※長安については8『日本美術年鑑』、福田については8及び10『帝國絵画名鑑 現代之部』の項を参照のこと

7 『大日本繪画著名大見立 明治三十九年改正』1906（明治39）年 編輯人發行人仙田半助

肖像画	大阪高津表門上本町東	小野素文（欄外）
前頭	兵庫縣加東郡上福田町	三木翠山（二段目）
前頭	東京下谷西町一七	長安雅山（二段目）
前頭	兵庫縣下土井町	西田松太郎（五段目）
頭取席不同	兵庫縣明石町	細谷立齋
遊畫席順不同	兵庫縣明石町	米澤梅窓

8 『日本美術年鑑』1911（明治44）年 画報社

巖本生次（ナリツグ）一号圓崖。明治二年二月十一日姫路市に生る、神奈川県立第四中学校教諭、日本画（円山派）。父巖本圓嶺に学ぶ。日本美術協会々員、図画教育会々員。三十五年四月大阪にて開設の東洋美術展覧会に於て優等賞を受く、現住所京都市上京区三本木上之町二。

（大鑑）巖本圓崖、名は生次、明治二年姫路に生る、圓嶺の子、父に学ぶ、京都在。
 ※巖本圓崖については拙稿「巖本圓嶺と2人の子－姫路ゆかりの画家」『美術館だより』76号（2002年 姫路市立美術館）を参照のこと

西田泰 一号竹僊。明治十二年五月十二日兵庫縣赤穂郡若狭野村に生る、画家、日本画（四条派）、鈴木松年に師事す、現住所京都市押小路東洞院西入。

（大鑑）西田竹泉、明治十二年兵庫縣に生る、京都住、四条派を修む

岡田毅 一号九郎。明治二十一年五月四日姫路市に生る。日本新聞記者、西洋画（油絵）、中村不折に師事す、現住所東京市麹町上六番町一〇。現住所東京市麹町区上六番町一〇。

神樂江熏一号卷石道人。文久三年八月十四日播磨国網干に生る、漢学教授、日本画（南宗画）、中西耕石に学ぶ、詩情発する時のみ画筆を弄す、作品は公会に出陳せざるを以て旨とす、

談書会会員、現住所東京市牛込区築土八幡町三九。

(大鑑) 神楽江卷石、名は薫、字は萬春、別に下学迂士、中先生、雲□斎の号あり、文久三年播磨に生る、儒学は河野季一、秋山罷斎、南□羽嶂、内藤耻叟に、画法は中西耕石に学び、儒に居り画に食む、また書をよくし、常に画くに当りても、先づ書して、後画に入る、嘗て札幌に私塾を開き 眞朋塾と称す、枢密院に奉職すること十年、退職の後、牛込北山伏町に私塾を開きしが、今は京都上賀茂に住せり。

竹内勝 一兵庫県姫路師範学校教諭、日本画、明治三十四年東京美術学校日本画科卒業。

長安孝之助 一 号雅山。明治八年十月七日兵庫県赤穂町に生る、画家、日本画 (狩野派)、故橋本雅邦に学ぶ、国画玉成会幹事、二葉会幹事。四十四年四月二葉会展覧会に於て二等賞を受く、現住所東京市神田区和泉町一。

(大鑑) 名は暁、字は孝基、通称孝之助、明治八年十月兵庫県に生る、狩野義信の孫にして金學の子、東京住、橋本雅邦の門

※長安雅山については明治期の雑誌『日本美術』に作品図版等が多数紹介されている。また、大正9 (1920) 年4月の『美術写真画報』に「埋もれんとせし雅邦翁の画を見出して」という文章を寄稿している。さらに、水野隆山「雅山略傳」(『播磨』昭和28年9月10日号 播磨史談会) に詳しい説明があるので下に紹介する(長文のため、筆者が概要をまとめて記している)。

「長安周得の孫、金學の末子 画を以て立つたために家名を継ぐ。本名孝之助、名は堯、字は孝基。初め玉圃と号す。嗣善堂、五清楽人と称す。明治8年10月7日赤穂町生。維新後家産を失い、父も大病を患ったため、備前国邑久郡に借寓。興志小学校で優秀な成績をおさめる。明治16年一家は大阪へ移住。父金學は画や茶道を職とするようになっていたので、父の助手をつとめながら、漢学塾の夜学に通う。また、祖父義信の残した粉本下画によって独学。明治24年に母が、28年に父が死去。これより先に内国博覧会で橋本雅邦の龍虎、十六羅漢図に感激し、上京を決意。明治31年1月に中島體泉を頼って上京。雅邦に入門し、生活費に困窮して扇子の絵やビラ、挿絵などの内職をする。同門生で組織する二葉会で世話役を務める。明治33年11月に「姫小松」を絵画協会展に出品し、褒状二等を得る。明治39年(実際は40年一筆者)の文展に入選した「上宮太子」、40年の国画玉成会(実際は41年か、日本絵画展覧会のこと一筆者)に入選した「伊都岐島」は力作であった。しかし昭和3年の東洋絵画展覧会に「寒山拾得」を出品して一等賞金牌を得たのを最後に、出品画制作を断念した。その後赤穂義士の研究を始め、絵巻や色紙を制作、大石神社に奉納した。また祖父の法橋義信の画集を上梓した。壮年期の弟子に会田晴山、上野朗山があったが、若くして没す。以後は職業的門人を断り、素人の余技としての日本画指導を志し、嗣善堂社中と称して門下の育成に努力した。小児科の三輪信太郎医学博士と親しく交流し、多くの出品画は三輪が購入していたという。また富谷セイ太郎博士や黒田英雄氏、桜井八四郎氏とも親しい。茶道、謡曲、俳句なども嗜んだ。雅邦門下時代は下町を転々としたが、旧水戸藩士原信存の女と結婚後は牛込南榎町61に住み、昭和4年に杉並区天沼3の743に転住した。長男周一は「ムラージ」技術の優れた技能を有し、文部技官として東大医学部に勤務している。」

※雅山は1963年12月18日に東京都杉並区の自宅で没している。大石神社や赤穂市立歴史博物館に作品が所蔵されている。

黒田正策 一 号甄堂。明治三年二月二十日兵庫県神崎郡香呂村に生る、岐阜県土岐郡土岐津町立陶器

工業学校長、従七位、陶器製造技術専門、三十三年七月東京高等工業学校窯業科卒業、岐阜県陶友会会長、現住所土岐郡土岐津町一二八。

八木兼辰一号半仙。天保十年七月二十二日播磨国龍野町に生る、教員、日本画、故河野鉄兜、落合雙石、八木仙墨、齋藤崎庵、故龍(マ)和亭等に学ぶ、現住所神戸市山本通五丁目八七。

(大鑑) 前述

松岡輝夫一号映丘。明治十四年兵庫県田原村に生る、東京美術学校助教授、大和絵、故山名貫義に学ぶ、三十七年七月東京美術学校日本画科卒業、現住所東京市牛込区市ヶ谷砂土原町三丁目八。

※映丘については資料多数のため、ここでは省略する。「松岡映丘とその系譜展」(姫路市立美術館 1990年) 図録等を参照のこと。

前田圓 一号黙鳳。嘉永六年三月十七日播磨国龍野町に生る、著述業、士大夫画、日本美術協会会員。明治十八年清国に遊び上海、天津、北京の間を逍遙し彼土の博士墨容と交り金石学を研鑽し、書法を修め二十二年書学会を起す、四十二年同人と謀り健筆会を開く、四十三年同好と共に素人画を興して所謂士大夫画の研究及び絵画の品位を増進することを図る、現住所東京市下谷区中初音四丁目二六、営業所東京市京橋区元数寄屋町一丁目三、臨池閣。

福田周太郎一号麥僊。明治八年九月五日兵庫県赤穂郡に生る、画家、日本画(狩野派)、故久保田米僊、故橋本雅邦に学ぶ、国画玉成会々員、二葉会評議員、美術研精会評議員、三十三年第九回絵画共進会にて褒状、三十四年第十一回共進会にて褒状、三十五年第十三回共進会同上、三十六年第五回内国勸業博覧会に於て褒状を受く。目下絵画研究の爲め清国に赴き長江を遡り、蜀に入り西藏に遊び写生旅行中、現住所東京市赤坂区青山高樹町一七。

(大鑑) 福田眉仙、通称周太郎、字は有慶、旧号は麥僊、別に草雲、富華堂の号あり、明治八年播州に生る

(帝国) 眉仙 福田周太郎一字は有慶、旧号を麥僊といい、別に草雲と号す。其の居に題して富華堂と呼ぶ、明治八年九月五日兵庫県赤穂矢野に生る、宮田其溪、久保田米僊、橋本雅邦に師事して四条派及び狩野派を修め、更に蕪村及び雪舟に私淑し南北の両派を融合して一機軸を聞く、第五回内国勸業博覧会に霧の図を出品して褒状を得其の他諸種の展覧会に出品して受賞する事三十餘回に及ぶ、明治四十三年より同四十五年に至る三箇年間支那に渡り大いに其の技を研く、帝国絵画協会の会員にして絵画玉成会其の他諸会の評議員たり現に赤坂区青山高樹町に住す。

※眉仙については画集等多数発行されているが、ここでは省略する。詳しくは「福田眉仙展」(芦屋市立美術博物館 1992年) 図録を参照のこと。

佐野武吉一号精石。明治四年七月二十七日岡山県邑久郡玉津村に生る、兵庫県姫路高等女学校教諭、日本画(四条派)及水彩画、松本楓湖、大橋雅彦に師事、現住所兵庫県飾磨郡市殿村神谷二〇。

(大鑑) 佐野精石、名は武吉、明治四年七月岡山県玉津村に生る、松本楓湖、大橋雅彦に学ぶ

坂田圭藏一号習軒。明治二年姫路市北条口生る、画家、南宗画及図案、菅小琴を師とす、現住所大阪市南区西之町九一。

(大鑑) 坂田習軒、名は圭藏、明治二年六月姫路市に生る、菅小琴に学ぶ、大阪市住
※現住所は全て当時。鷺城新聞に登場した作家は前章で紹介。

9 『日本書畫名覽 明治四十五年改正 書画鑑定』1912（明治45）年 書画骨董雜誌社

現代國畫各派名家 東京 長安雅山
兵庫 横山松琴
兵庫 田川春莊

10 『帝國絵画名鑑 現代之部』帝國絵画協會編集部 1913（大正2）年 第3版
※初版は1912年

僊年 青木由太郎一字は澄雲、明治六年一月兵庫県立野町に生る、鈴木松年、松波長年、鈴木松僊に就きて鈴木派の画法を修め、殊に山水を能くす、戦捷記念博覽會に於て銀牌を、北陸絵画協會に於て銅牌を、日本美術協會に於て褒状を得る事前後数回に及び、嘗て宮内省御用品となる、帝國絵画協會、巽画會の會員にして、現に大阪市南区天王寺真法院町五百四十三番地に住す。

文暉 加古常太郎一本姓は大村、明治五年二月兵庫県播磨国明石郡神出村に生る、幼より画を好み春暈、日野靈信、加古南晁等に師事して文晁派を研究し、刻苦勉強技大に進み人物画を能くし、殊に墨画を喜ぶ、各種の画會に出品して好評あり、帝國絵画協會、京都南画協會の會員にして、現に兵庫県明石郡明石町内桜町に住す、画道の外茶道、生花を嗜む。

霞邨 土肥健治一明治二十八年六月十四日を以て兵庫県加東郡中東條村の内東垂水村に生る、幼にして画を好み長ずるに及んで斯道に身を委んと欲し大日本絵画講習會に□りて其の全科を修め更に自ら四条派の名蹟を臨□して大いに得る所あり、殊に山水花鳥を能くす、帝國絵画協會の會員にして、現に兵庫県美囊郡三木ノ内府内町に住す、画道の外旅行を好み閑あれば即ち画囊を携へて杖を□山幽□に曳く

11 『現代日本美術家全録』木澤孚編 1914（大正3）年 畫報社

高橋草山一正身（まさちか） 嘉永5年5月12日生 南画 師は川辺御楯

八木文卿一号半仙 天保10年7月22日生 教員 日画 師は落合雙石、齊藤崎庵、瀧和亭
神戸市山本通5-87

伊藤鷺城一明治6年1月20日生 日画 師谷口香嶠 京都美術協會會員
京都市上京区室町通夷川下

庭山慶藏一明治2年1月14日生 日画(円山) 師鈴木松年 大阪絵画協會委員 大阪実業協會美術部委員 巽画會員
大阪市東区北濱4-37

巖本圓嶺一弘化4年3月29日生 師渡辺丹崖 巴里万国博覽會にて銀賞牌受領
著書「繪畫哲學論」あり。
京都市上京区東三本木上之町2。

山本信太郎一兵庫 日画 明治45年3月に美術学校日画科卒

12 「大日本現代畫家番附 大正4年度」1915（大正4）年 絵画清談社篇

關東 東京 松岡映丘（6段目）
 東京 福田眉仙（6段目）
 東京 長安雅山（7段目）
 東京 神楽江卷石（10段目）
 關西 京都 橋本関雪（1段目）
 大阪 庭山耕園（3段目）
 京都 森月城（6段目）
 京都 三木翠山（6段目）
 大阪 小野素文（9段目）
 兵庫 松岡文三（9段目）
 兵庫 新井完（9段目）
 大阪 藤本煙津（11段目）

13 「日本畫家豫撰格付表 大正5年改正」1916（大正5）年 編輯発行 審美画会

壹等席 東京 松岡映丘
 貳等席 東京 福田眉仙
 參等席 東京 長安雅山
 壹等席 京都 橋本関雪
 壹等席 大阪 庭山耕園
 參等席 京都 森月城
 參等席 大阪 小野素文
 參等席 京都 三木翠山
 參等席 京都 伊藤鷺城

14 「改訂 大正六年度 大日本書畫家一覽」1917（大正6）年 大阪新畫館

東京北宗畫之部 福田眉仙
 大阪南宗畫之部 藤本煙津 南区上本町（老功之部）
 大阪北宗一流大家 庭山耕園 東区淀屋小路
 地方南宗二流 都守竹山 姫路市豆腐町
 地方南宗二流 加古文暉 播磨明石内櫻町
 地方南宗二流 中川逸田 兵庫県赤石郡清水村
 地方北宗二流 小方花圃 兵庫県明石町丸山町
 地方北宗二流 高瀬筆山 姫路市北條町
 地方北宗二流 朝見香城 兵庫県飾磨郡青山

15 『播州大観』1918（大正7）年 播州大観編纂所編・発行

橋本海関、橋本関雪、藤岡了空（青山村教傳寺老僧）、神楽江□、長安雅山、藤本煙津、三木翠山、福田眉山、水越松南らが紹介されている。

16 『東西畫家格付表 大正8年改正』1919（大正8）年 編輯発行 審美画会

壹等席 東京 松岡映丘
參等席 東京 長安雅山
壹等席 京都 橋本閑雪
貳等席 大阪 庭山耕園
貳等席 京都 三木翠山

17 『帝国美術家名鑑』1919（大正8）年 東村日出男編 日本実業新聞社

長安雅山、福田眉山、橋本閑雪、高倉觀崖、伊藤鷲城、三木翠山、森月城、庭山耕園 等

小野素文（大阪北宗二流）南区天王寺正門前
加古文暉（地方南宗二流）播磨明石町内桜町
田畑好秀（地方南宗二流）神戸琴緒町五丁目
橋本寛晃（地方南宗二流）姫路市上銀町
民輪文岳（地方北宗）神戸市三宮 丁目 写生派
田島杉溪（地方北宗）加東郡小野町 合派
伊賀南浦（地方北宗）揖保郡龍野 四條派
平井正年（地方北宗）播磨坂越村字坂越 四條派
坪田豊年（地方北宗）神戸市楠町
高橋草山（全国遊画）姫路市北條町 南宗派

18 『日本名画家大鑑』1921（大正10）年 全国絵画実力調査会編 日本研美会

庭山耕園一円山 師上田耕仲、鈴木松年 関西書画花鳥画大家 尺五絹本価格100円
大阪市東区淀屋橋

19 『書画鑑賞芸苑人名辞典』1927（昭和2）年 橋宇坤 紅玉堂書店

庄司春海—播磨の南宗派画家 弘化元年生
高倉觀崖—画 京都の画家 橋本閑雪の門 生年未詳
巖本圓嶺—巖本繁治 播州の円山派画家 渡辺丹涯の門 弘化4年生
三木翠山—三木斎一郎 京都住 明治18年生
伊藤鷲城—伊藤又次 京都住 明治6年生
藤本煙津—嘉永2年生
高橋草山—高橋正身 播磨三草の人 「芥子園画伝」によって独習自得 嘉永5年生

20 『昭和四年改正 現代畫家番附』1929（昭和4）年 美術倶楽部出版部

高倉觀崖、朝見香城、廣丘寛之、福田眉仙、相生垣秋津、久川太三など
梅谷華邦 官展入選1回 三十歳 春舉 京都佛池高倉西入海外
長安雅山 雅邦 五五歳 牛込区南榎町48

※廣丘寛之については1997年に太子町立歴史資料館で回想展が開催されている。1888年に生まれ、京都市立絵画専門学校で学び、第2回帝展に入選、その後姫路商業学校で教鞭をとった。1973年に没している。

21 『古今日本書画名家全傳』小林雲山編 1931（昭和6）年 二松堂

詩文書画（文人画）の部 小林雲山一名は勉、字は弘昌。儒医三方眞斎の曾孫、代々医家姫路の島琴江及び京都の浅井柳塘に就いて南宗画を学ぶ。播磨多可郡清水生。

22 『日本古今現代書画家名鑑 現代篇』1934（昭和9）年 帝国審美協会編集部 弘道閣

長井一禾—明治元年生 穂庵暁斎に師事。明石市。
藤本煙津—弘化4年生 琴江。大阪東区本町五の一九三
長安雅山—明治7年。雅邦。文展1回。牛込区南榎町48
廣岡寛之—明治20年。京絵。帝展1回。揖保郡大田村。
梅谷華邦—明治32年。春挙。文展1回。京都御池高倉西入海外
久川太三—院展1回。京都

23 『昭和十年度版 新訂現代日本画家名鑑 関西版』1935（昭和10）年 京都絵画聯盟会発行

伊藤又治	鷲城 六二	京都市室町通中長者町下ル
飯塚周悦		神戸市須磨区離宮前79
神楽江薫	卷石 七二	京都市下長者町烏丸西入 師耕石
高橋清一	清泉 二四	京都市下鴨松原町（大橋貞一郎方） 師嘯谷 姫路市出身
坪田信次	豊年 四五	神戸市長田神社馬場先 師春挙。姫路市出身
梅谷華邦		京都市御池高倉西入
楠川古川		兵庫県加古川町ノ内寺家町
山本實三郎		兵庫県加東郡來住村下來住 師麥僊
藤原春吉	墨雨 五二	兵庫県佐用郡 尾道出身 師竹石
阿曾五男	五邦	兵庫県宍粟郡三河村中三河
足立繁造	光華 四八	姫路市外高濱 丹波出身 北支、南支を巡遊すること2回。第1回朝鮮美術展に入選。
木村道治	幽溪 四一	兵庫県飾磨郡八幡村 五雲
三木斎一郎	翠山 三八	清水坂土地會社区域
廣岡寛入		揖保郡太田村
廣田卓爾		兵庫県加西郡多加野村 南宗

24 『現代畫家番附 昭和十二年改正版』1937（昭和12）年 清水澄編集

舊文展系日本畫家	長安雅山 入選一回 雅邦 山水、花鳥、人物 六三（歳）
	東京杉並天沼三ノ七四三
日本美術協會々員	秦如晨 姫路市外妻鹿村

日本畫獨立畫家 庭山耕園 松年 六九 大阪市東區淡路町一ノ一〇
藤本煙津 琴江 八八 大阪市東區上東町五ノ一九二
明治以後物故有名日本畫家 神樂江卷石 昭和九年歿（南宗）

25 『高砂市史 曾根篇』1964（昭和39）年 高砂市教育委員会 より

田能村直入は亀田五一郎宅へ寄寓していたことがある。

橋本関雪は伝法寺に寄寓していたことがある。

梅谷華邦-1899-1921。本名大三。父政太郎、母ヤスの五男。曾根高等小卒業後商家を転々とし、海外天山に弟子入り。のち中筋の本庄（本庄冬苑の父）が山元春舉に紹介し師事。第12回文展に（コスモス）で入選。北の丁桃源寺で画会を開き、春舉の高弟も来曾するが、流行性感冒で死去したという。

角谷紫光-穴吹香村、松林桂月に師事。後にアメリカに渡り、水墨画を広めた。終戦後は郷土美術の発展に尽力した。

26 『加古川市史 第六卷上 史料編Ⅲ（近・現代編）』1990（平成2）年 兵庫県加古川市 より

〔絵画共進会への出品〕

内国絵画共進会出品願 本年七月第十四号御布達内国絵画共進会御開設相成候ニ付、本会御規則ニ基キ別紙之通出品仕度、此段奉願候也

明治十五年八月十四日 播磨国加古郡新野辺村 梅谷桂藏 印

前書ノ通相違無之ニ付、奥印仕候也

戸長 山口甚七 印

兵庫県令 森岡昌純殿

（別紙） 記

- 支那南派 一 着色人物密画 幅二尺三寸長四尺七寸 壹枚
但、用紙画箋紙
- 一 着色花鳥密画 幅二尺三寸長四尺七寸 壹枚
但、用紙画箋紙
- 一 浅絳法山水疎画 幅二尺三寸長四尺七寸 壹枚
但、用紙画箋紙

〔明治四十二年の書画展覧会並びに盆栽会〕

来ル五日午前八時ヨリ午後五時マテ、伊保村ノ内伊保崎村字中所常念寺ニ於テ、書画展覧会并ニ盆栽会及囲碁会開催仕候、同好ノ諸君何卒御来臨被下度候

尚御同好ノ諸君御出品願上候

明治四十四年二月二日

盆栽部 中筋村 島本利三郎

同 魚橋村 原田孫太郎

書画部 伊保崎村 大村彦太郎

同	中筋村	中村種治
同	伊保崎村	田中庄七
同	同村	安福弥六
囲碁部		中谷与吉郎
同		井村太七郎
同		伊藤英一

- 27 『ふるさと三木文庫6 池田春翬手帖（前編）』松村義臣著 三木郷土史の会発行
1989（平成元）年

池田春翬と橋本海関、藤本節二、宗像芦屋、河野鉄兜、山本梅逸、藤本鉄石、村田香谷らとの関係が示される。

- 28 『小野史誌』1969（昭和44）年 小野市役所 より

児島蔵六―三宅清昌の家に生まれる。岡山県生で小野に移住。南宗画を浪華の金子雪操に学ぶ。明治24年没。

- 29 『兵庫県美囊郡誌』1985（昭和60）年 臨川書店（※1926年初版） より

池田春翬 本姓原、京都ノ画家原文翬ノ子、天保二辛卯年正月防州徳山侯ノ大阪蔵屋敷ニ生ル。本名眞文、幼名ヲ卯太郎、後雅楽、又主馬トモイヘリ。原氏ノ先ハ阿波藩御茶道役ヲ勤メタリシガ、春翬ノ祖父為八故アリテ致仕シ、更ニ周防徳山侯毛利淡路守ニ仕ヘ大阪蔵屋舗ニ在勤シ、播州三木町大年寄廣田平太左衛門ノ姉ヲ娶リ一女ヲ生ミ之レヲ梶女ト名ヅク、即チ春翬ノ実母ナリ。実父文翬江戸ノ画家谷文晁ニ学ビ徳山侯ニ仕ヘタリシヲ以テ、春翬亦其流ヲ汲ミ手腕大ニ見ルベキモノアリキ。年少詩文ヲ堺ノ人小川敬齋ニ学ビ、壮年ニ及ビ絵画ノ上達スルト共ニ漢学ノ造詣亦浅カラズ。其三木ニ来リ池田氏ニ入家シタリシハ、文久三年、春翬三十三歳ノ時ナリ。爾来大宮八幡社ノ神職トシテ、一面東播知名ノ画家トシテ衆望ヲ担ヒ、傍少年子弟ニ漢学並詩文ノ教授ヲナス。特ニ旗本一柳氏ノ聘ニ応ジテ詩文ヲ講ジ、明石藩主松平侯ニ出入ヲ許サレタルガ如キハ、時人ノ異数トスルトコロナリキ。一面又明石、美囊両郡ノ学区取締、三木町学務委員トシテ、公共ノ事ニモ尽スコト少カラズ。三木町ニ始メテ小学校建設当時ノ如キ、尽瘁大ニ努メタリト云フ。

画家トシテノ春翬ハ毅然頭角ヲ顯シ世風ニ阿ラズ一家ノ手腕ヲ振フ、花鳥ハ最モ得意トスルトコロニシテ作品多ク、明治二十三年大阪博物場美術館新画展覧会ニ出品シテ一等賞ヲ受ク。

春翬故藤本鉄石、伊藤侯爵等ト親交アリ、文書ノ往復常ニ絶エズ、博文侯ガ兵庫県知事タリシ時度々加東郡市場村ノ近藤家ニ来ルコトアリ、春翬其ノ都度往テ之レト面接ス、侯ガ累進シテ東都ニ赴クニアタリテ詩ヲ賦シテ春翬ニ寄ス。曰ク

吾慕惺々陋巷貧。官遊久已厭風塵。羨君隱逸山中樂。高臥悠悠学古人。

乞春翬仁兄大人之呵正 春畝生

今池田氏ハ家宝トシテ秘蔵ス。

春翬著アリ、漢学早学、翰墨良材トイフ。

明治二十四年九月歿ス、齡六十一、三木町箕谷墓地ニ葬ル。男胤男氏家ヲ継ギ、次其治郎氏故アリテ井上氏ヲ称シ、大阪毎日新聞ノ編集記者トシテ令名アリシガ昨年病歿セリ。

大宮遊園地内ニ故春鞏翁ノ称徳碑アリ、文ハ海関橋本氏ノ撰ニシテ藤本煙津之ヲ書ス。

30 『加東郡誌』1973年 臨川書店（1923年初版 加東郡誌編纂委員会編）より

田能村小齋 北條の人で名は順、大野芳□の三男である。幼あり画をよくし田能村直入の義子となつてから其技あらはれ小齋の名斯界ニ晴々であつた。明治42年12月京都で卒した。

31 木下直之「兵庫県内日本画壇回顧」（『県内日本画壇回顧展図録』1982（昭和57）年 兵庫県立近代美術館）より

島琴江 一島琴陵の子。

（大鑑）島 琴江、名は麟造、明治年間、伝記未詳

福島半邨一島琴陵に学ぶ。

藤本煙津一島琴江に学ぶ。

高橋草山一瀧和亭、川辺御楯に学ぶ。

田能村小齋一加西郡北条生。京都に出て田能村直入に師事。その養子となる。

田能村小篁一小齋の子、夭折した。

（大鑑）田能村氏、直入の孫、小齋の子、画を父祖に学ぶ、明治四十三年歿、年三十三
庭山耕園一姫路に生まれ、大阪で活動。上田耕沖に師事し四条派を修める。花鳥画を特異として、
多くの門人を育てる。

細谷立齋一高松生。京都で貫名海屋に師事したのち各地を遊歴、明石に住みつゝ。第2回内国勸業博覧会、第2回絵画共進会に出品。

弟子の北村李軒は立齋の没後の大正3年に「立齋翁墨妙集」を出版。

斎藤崎庵一城崎出身。第2回内国勸業博覧会に出品。明石に長期滞留したと伝えられる。

岩本圓嶺一幕末より円山派に学び、播磨、丹波を歩くうちに「測量学ヲ修シ地券発行ノ際専ラ測量及製図等ニ従事セリ」。

桑原對泉一日根對山に学び、第2回内国絵画共進会で褒状を得る。「明治12年監獄所陶器製造画方授業師ヲ拜命ス」。

菅小琴 一淡路島出身。「明治13年8月兵庫県ニ於テ画工一等授業師ヲ拜命シ監獄署姫路分署工場陶器方へ出張ス」。

32 『20世紀物故日本画家事典』1998（平成10）年 美術年鑑社 より

相生垣秋津一1896-1967。明治29年4月29日、兵庫県高砂町に生まれる。本名三次（さんじ）。画家を志して上京、川端画学校に学ぶ。川合玉堂に師事、大正9年国画創作協会第3回展に「早春の丘」で初入選、また未来派美術協会第1回展に「療養院の庭」で入選する。12年関東大震災のためやむなく帰郷、家業の履物製造販売を継ぐ。仕事のかたわら俳句に親しみ俳画を描き、『ホトトギス』同人となり昭和15年句画集『白毫帖』、16年『山野抄』を上梓する。戦後の30年ごろ作品展を神戸・そごうで開催する。昭和42年4月27日、高砂市で歿。享年70。

※『山野抄』は県立図書館、国会図書館に、『白毫帖』は国会図書館に所蔵あり。

『山野抄』には句と共に自作の絵（仏画、美校在学時の作品（カラー）など）が掲

載されている。高砂藍屋町の出口一男が出版し、相生垣の住所は高砂町南渡海町となっている。大正11～14年に刊行されていた雑誌「詩と版画」の同人でもあった。また、戦後は1946から東播磨の文化団体「白泥会」に参加し、1950年から1962年まで毎年姫路市美術展にも出品している。

※相生垣秋津については『国画創作協会の全貌』（光村推古書院 1996年）に詳しい。

浅井蒼石 - 1872-1946。明治5年8月15日、兵庫県赤穂に生まれる。旧姓山本、本名寿三郎。浅井弥兵衛の養子となり、分家して浅井醤油合名会社の代表社員となる。かたわら神戸新聞の囑託をつとめ、越智東予について絵画を学ぶ。墨香会会員。

昭和21年1月22日歿。享年73。

井上石邨 - 1893-1975。兵庫県三木に生まれる。本名龍。高等小学校を終え、画家を志して京都に出、大正元年田辺竹邨の内弟子となり南画を学ぶ（7年まで）。また小室翠雲にも指導を仰ぎ、昭和6年日本南画院第10回展に「平湯所見」で初入選、9年日本南画院院友となる。また平安南画壇展に8年から出品。戦後は35年松林桂月らによる日本南画院再興に参加、その定期展に「潮風」「懐古」などを出品、会長賞、日本南画院賞の受賞を重ねる。晩年の49年京都・大徳寺塔頭龍源院の天井画「龍」を制作。最後の南画家とも呼ばれ、日本南画院理事、平安南画壇常任理事をつとめる。昭和50年3月25日歿。享年82。

田能村小斎 - 1845-1909。弘化2年10月10日、播磨国（兵庫県）北条に生まれる。旧姓大野、幼くして田能村直入の養子となる。名は順。字は子慎。通称順之助、養父に画法を学び、また文武兼ね備え豊後の岡家に仕える。明治維新後、京都に移り、明治17年第2回内国絵画共進会で褒状を受け、同年直入が京都府画学校を辞めて画塾を開設、以後その指導にあたる。明治42年12月31日、京都市で歿。享年64。日本画家田能村小篁は子息。

寺島紫明 - 1892-1975。明治25年11月18日、兵庫県明石市に生まれる。本名寺嶋徳重。大正2年画家を志し、長野草風の紹介により鍋木清方に師事、翌3年巽画会第14回展に初入選、三等賞となる。5年清方門下生による郷土会第2回展に「夕月」を出品、三十五歳の昭和2年第8回帝展に「夕なぎ」で初入選、以後帝展、新文展に入選を重ね、16年第4回新文展に「寸涼」、17年第5回新文展に「秋単衣」で連続特選となる。この間、九臈会展や清流会展に出品、11年西宮に移り住み、15年には前年に結成された伊藤深水らの青衿会に客員として迎えられる。戦後は21年秋の第2回日展から出品、26年第7回日展に初の審査員として「上女中」を出品、その後も依囑出品を重ねる。また日月社展に出品、28年には最初の個展を銀座・松阪屋で開催す留。33年日展評議員となり、この年門下生により明美会が結成される。36年第4回新日展に「舞妓」で文部大臣賞、45年に前年の改組第1回日展出品作「舞妓」で第26回日本芸術院賞恩賜賞を受賞。46年には神戸新聞平和賞を受賞する。遅いデビューであったが美人画一筋に研鑽を重ね、情感溢れる女性像を描き続けた。昭和50年1月12日、西宮市で歿。享年82。
※紫明については『女性美の画家 寺島紫明展』（神戸新聞社 2003年）図録などを参照のこと。

久川太三 - 1900-1926。明治33年6月10日、兵庫県明石市に生まれる。大正10年京都市立美術工芸学校絵画科、13年京都市立絵画専門学校をそれぞれ卒業、国画創作協会第4回展に「風景」で初入選する。在学中の12年石川晴彦らと生作社を結成、また14年には岡村宇太郎、杉田勇次郎、多田敬一らと擁援会を結成して、それぞれ一回だけグループ展を開催するが、大正15年3月14日、京都市で急逝。享年25。

※久川太三については『国画創作協会の全貌』（光村推古書院 1996年）に詳しい。

森月城 —1887-1961。明治20年6月、兵庫県加東郡に生まれる。本名寛太郎。小学校を終えると京都に出、竹内栖鳳に師事する。41年第2回文展に「涼蔭」で初入選、以後文展に「見せ物」「すもゝの里」「家島の夏」「登山の巻」などで入選を重ねる。大正8年第1回帝展に「凧の日」で入選、この帝展にも入選を重ね、昭和4年帝展推薦となる。5年第2回聖徳太子奉賛美術展に「猿」を無鑑査出品、11年秋の文展招待展に「雨過ぐ」を招待出品、12年からの新文展に台湾風景などを無鑑査出品、17年第5回新文展に「行秋」を無鑑査出品、最後の官展出品作となる。兵庫県の日本画振興に尽力、戦後の27年兵庫県文化賞を受賞、昭和36年11月21日歿。享年74。

3 内国絵画共進会出品の播磨関連作家

ここでは内国絵画共進会の関連資料から基本的に播磨関係のデータを抜粋した。ただし兵庫県内とだけ判明しているもので、明らかに播磨関係でないものは省いたが、それ以外のものは残している。
※『近代日本 アート・カタログ・コレクション』（ゆまに書房）「内国絵画共進会」第1～4巻を参照した。

分類（第一回）

- 第一区 巨勢、宅間、春日、土佐、住吉、光琳派等
- 第二区 狩野派
- 第三区 支那南北派
- 第四区 菱川、宮川、歌川、長谷川派等
- 第五区 円山派
- 第六区 第一区より第五区までの諸派に加わざるのもの
- 第七区 新に機軸を出し別に見解を開きたるもの（第二回より）

農商務省版 改正絵画出品目録 明治十五年十月 国文社第一支店発売

第二区	兵庫県	山水	狩野派	号法橋	北條暉水
		松二鶴			文信
		文王訪太公望圖	同	号北光齋雲峯	中村卯作
		巨靈人			
第三区	兵庫県	春景山水	南宗派	号蘭室	入江良七
		秋景山水			
		米法山水			
		花卉	同	今井椿堂	
		松菊			
		蓮二鯉魚	南宗派	号草山	高橋正身
		枯蕉			
		虎	同	号菁雨	高瀬正宇
		山水			
		山水	同	号桂圃	武田建三
		花鳥			
		山水	同	号雪山	都筑駒
		雪梅			
		月下美人	同	号藍溪	梅谷桂藏
		山水			
		山水	同	号蘭溪	井上喜
		竹			
		山水	同	号竹荘	小場瀬與兵衛
		同			
		山水	同	号石邨	大谷半介
		梅蘭			

	山水	同	号香雨生	久保昌平
	同			
	山水	同	号對泉	桑原真糸
	同			
	山水	同	号半仙	八木兼辰
	花卉			
	山水	同	号聽琴	松田半十郎
	松二靈芝			
	山水	同	号采藻	前川チズ
	同			
	山水	同	号七條道士	福島半仙
	古松			
	山水	同	号半邨	福島教□
	同			
	山水	同	号春海	正司整
	同			
	虎	北宗派	号琴江	島琴江
	山水			
	鳴門真景	南宗派	号小琴	菅小琴
	觀音			
	竹			
第五区	王昭君	円山派	号圓嶺	巖本繁次
	播磨灘遠望			
	山水	円山派	宮崎霞谷	
	牡丹			
	柳陰山水	岸派	号蟾磨	滋野芳園
	水邊群禽			
	巴提使刺虎圖			
	月二狼			
農商務省版	第二回絵画出品目録	明治十七年四月	国文社	
第三区	兵庫県	南宗	号孤山	一瀬佐介
	芍薬群蝶			
	老松			
	富貴國香	同	号椿堂	今井椿堂
	蓮蟹			
	富貴長命	同	池田眞文	
	山水			
	荷花游魚	同	号立齋	細谷辰三郎
	米法山水			
	花卉	同	号石洲	富永衛二
	松二孔雀			
	櫻花白燕	漢画写生	号草山	高橋正身

	魚類貝藻			
	鉤籠花卉	同	号香園	浦井香園
	鯨魚			
	夏景山水	同	号蘭溪	井上喜
	蘭			
	山水	同	号對泉	桑原真糸
	同			
	天保九如	同	号半仙一榛洋	八木兼辰
	雨後芭蕉			
	梅林山水	同	号采藻	前川チス
	芭蕉枸杞ノ圖			
	雪景山水	同	号半邨	福島教鼎
	花卉			
	玉堂富貴	同	号煙津	藤本節二
	梧桐			
	蘭亭圖		号小琴	菅小琴
	山水			
第五区	佛御前嵯峨野圖	円山派	号圓嶺	巖本繁治
	猿			
褒状	兵庫縣播磨國明石郡東魚町	第三区		細谷辰三郎
	同飾東郡姫路		同	桑原真糸

出品人略譜より

一瀬佐介孤山ト号ス播磨国明石郡樽屋町ニ住ス一瀬清八（号重玉）ノ男ニシテ安政六年 四月生ナリ明治十一年八月ヨリ画ヲ細谷立齋ニ学ブ

今井椿堂別ニ込羊山樵ト号ス播磨国佐用郡乃井野村ノ人ニシテ多可郡中村町ニ寄留ス三宅順治（号墨洗）ノ男ニシテ今井久通（号手枕亭歌種）ノ家ヲ継ク幼ヨリ画ヲ好ミ鳥鵬（号琴陵）ニ随ヒ六法ノ大要ヲ質シ明清名家ノ真蹟ヲ摸ス嘗テ区长又郡書記ヲ勤ム

池田眞文春鞏ト号ス播磨國美囊郡福井町ニ住ス原文鞏ノ男ニシテ天保二年正月生ナリ画ヲ父ニ学フ

細谷辰三郎立齋又六一山人古道人等ノ号アリ讃岐国香川県高松内町ノ人ニシテ播磨国明石郡東魚町ニ寄留ス細谷成海（号松坡）ノ男ニシテ天保三年四月生ナリ初メ画ヲ父ニ学ヒ安政二年ヨリ貫名海屋ニ随フ

富永衛二石洲ト号ス播磨国明石郡當津村ニ住ス富永應助（号記堂）ノ男ニシテ天保九年三月五日生ナリ慶応元年ヨリ明治五年迄画ヲ大西仙舟ニ学フ

高橋正身草山ト号ス播磨国加東郡三草町ノ人ニシテ姫路元塩町ニ寄留ス高橋正明ノ男ニシテ嘉永五年五月生ナリ嘗テ旧藩主ノ命ヲ奉シ地方ノ事務兼軍務ニ従事シ明治四年廢藩ニ際シ職ヲ解キ初メテ絵事ニ志シ芥子園画譜ヲ臨□シ明治五年飾磨県出仕拜命夫ヨリ或ハ辭職シ或ハ奉職シヲ明治十三年ヨリ専ラ徐崇嗣其他名家ノ法ヲ学フ嘗テ京坂ノ間ヲ漫遊ス

浦井香園播磨国明石郡西新町ニ住ス橋本又喜ノ男ニシテ天保六年十二月十日生ナリ安政三年ヨリ万延元年迄画ヲ細谷立齋（号古道人）ニ学フ

井上喜蘭溪ト号ス播磨国佐用郡櫛田村ニ住ス井上三郎兵衛ノ男ナリ安政四年八月学ヲ河野鉄兜ニ

受ケ同五年二月画ヲ肥塚慎八（号南江）ニ学フ

桑原真糸対泉ト号ス播磨国飾東郡姫路五郎右衛門邸ニ住ス桑原精七ノ男ニシテ天保九年七月十七日生ナリ画ヲ下田重次郎（号桂屋）ニ学ヒ没後日根対山ニ随フ慶応年中社寺奉行ノ属吏ヲ勤メ明治六年高岡神社祠官拜命同十二年監獄所陶器製造画方授業師ヲ拜命ス

八木兼辰半仙ト号ス播磨国神東郡橋本村ニ住ス八木逸十郎（号雪研）ノ男ニシテ天保十一年七月廿二日生ナリ幼ヨリ画ヲ但馬ノ人齋藤崎菴ニ学ヒ又画法ヲ下田桂屋八水仙鼎金城等ニ質ス備前備中備後安芸周防但馬丹波丹後撰津淡路因幡伯耆和泉河内山城東京長崎等ヲ遊歴ス

前川チス采藻ト号ス播磨国赤穂郡加里屋町ニ住ス薄田仙右衛門ノ女ニシテ文政二年十一月生ナリ画を村山秀一郎（号荷汀）ニ学フ

福島教鼎半村ト号ス播磨国飾東郡姫路小姓町ニ住ス福島教善（号萩山）ノ男ニシテ文化十三年五月八日生ナリ天保四年ヨリ花鳥ヲ島琴陵ニ学ヒ後山水ヲ下田重次郎（号桂屋）浦上春琴等ニ学ヒ嘉永元年旧藩書籍預リヲ命セラレ明治五年飾磨県地方保長県小学校掛及教員副区長兼巡查取締等ヲ拜命シ同十年職ヲ辞シ専ラ明清諸家ノ本ニ倣フ

藤本節二煙津ト号ス播磨国神東郡西田原村ニ住ス繁内甚兵衛（号海月）ノ嘉永二年五月生ナリ初メ学ヲ父ニ受ケ文久二年ヨリ画ヲ島琴江ニ学ヒ明治元年藤本太平ノ家ニ適キ其姓ヲ冒シ又西牧村医学寮ニ於テ詩文他ヲ研究シ同四年江馬天江ノ門ニ入り翌五年村田香谷ニ随ヒ南画ヲ学ヒ同八年以降戸長又郡役所用掛ヲ勤メ同十三年四月之ヲ辞シ書画篆刻ヲ以テ但馬丹後播磨撰津等ヲ遊歴ス

菅小琴淡路国三原郡港村ノ人ニシテ播磨国飾東郡姫路大藏前ニ寄留ス菅傳吉（号梅林）ノ男ニシテ文化十三年十二月廿日生ナリ画ヲ吉川松谷藤本鉄石ノ二氏ニ学ヒ畿内及ヒ伊予淡路ヲ遊歴シ明治十三年八月兵庫県ニ於テ画工一等授業師ヲ拜命シ監獄署姫路分署工場陶器方へ出張ス

巖本繁治圓嶺ト号ス播磨国飾東郡姫路元塩町ニ住ス上田善兵衛ノ男ニシテ岩本元助ノ養子トナル弘化四年三月廿九日生ナリ幼ヨリ絵ヲ嗜ミ万延元年ヨリ野村雲鳳ノ門ニ入り後渡邊康雲（号丹峯）ニ随ヒ夫ヨリ播磨丹波ヲ遊歴シ中頃測量学ヲ修シ地券発行ノ際専ラ測量及製図等ニ従事セリ

※参考 文化元=1804 文政元=1818 天保元=1830 弘化元=1844
 嘉永元=1848 安政元=1854 万延元=1860 文久元=1861
 元治元=1864 慶応元=1865

（ひらせ れいた・当館学芸員）